

## 協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見 ～次世代へのバトン～

令和5年3月31日  
富里市協働のまちづくり推進委員会

令和4年度の推進計画の進捗状況を踏まえ、今後の取組について、富里市協働のまちづくり推進委員会としての総括的な意見等については、以下のとおりです。

本市は、市制20周年を迎え、いろいろな場面で新しい『富里』としての第一歩を踏み出しました。

旧岩崎久彌末廣農場別邸公園の整備が本格的に進められると共に、隣接する商業施設の末廣農場のグランドオープンが、市民に明るい話題を提供しました。また、市民の中にも長く続いたコロナ禍から立ち直るきっかけを掴むように、いくつかの市民活動団体が新たに立ち上げられ、様々なイベントが開催されるなど、積極的に活動されています。一般的には、遺産としてのみ評価されがちな文化財ですが、文化財をまちづくりに活かそうとする市民の活動は、行政と共にその価値を高めていくものであり、恵まれた自然と共に次世代へのバトンとしての一つのツールと言えます。

さらに、市民活動の醸成とサステイナブル（SDGs）を柱とした「第2次富里市協働のまちづくり推進計画」が本格的にスタートをしました。富里の良さと市民のために頑張る市職員によって市民目線に立った協働のまちづくりが進められており、その中でも、若者プロジェクトチームによる事業については、地域住民、学校、事業者、市民活動団体等の協力のもと実施されており、富里市のまちづくりに一躍を担うものとして、市民の関心が高まりつつあるので、今後も期待ができます。

また、市民活動感謝状の贈呈については、市民、事業者などに限らず一人ひとりの市民活動にスポットを当て、まちづくりを支えていることに対して表彰するものであり、活動者の励みになるような制度として、今後も周知方法などについてもブラッシュアップ（磨き上げ、より良いものにする）して行ってほしいと思います。

最後に、当委員会は移行期を担い、条例制定以来の市民活動支援補助金交付要綱及び審査要領を活動団体の要望に、より応えることができるように見直しを行いました。

協働のまちづくりについて様々な関わりの違いがあっても、市民の強い結束力で、子どもたちが誇りに思える豊かなまちづくりにつながることを心から願っています。

## 【第1節 活動の醸成支援】

市民活動サポートセンターについては、今後も市民や市民活動団体の交流のきっかけになるような機能の充実・強化を図っていただきたいと思います。

取組や実績については、計画の「推進内容」の項目との対応がわかるようにしていただき、「7つの支援力」の強化に向けた取組については、年度ごとに、どの支援力の向上に関わる技術向上が果たされたのか具体的にあると良いと思います。

また、「7つの支援力」については、「政策提言」の部分について機能が果たされていないように思うので、今後の取組に期待しています。

サポートセンターで発行しているニュースレターについては読みやすく、様々な地域活動や富里の魅力を紹介しており、多くの方に読んでいただきたい内容となっているので、継続した発行に努めていただきたいと思います。

市民活動支援補助金については、計画内で公開プレゼンテーションについて「事業のPR」を図ることが位置づけられているので、「公開」の実績として「取組実績」欄に傍聴者（一般参加者）の人数を示す必要があると考えます。実績がない場合は、コロナ禍で積極的な募集を行わなかったなど、次年度につながる反省点を付記することも有益なように思います。

市民が市民活動を支える仕組みである「ちい寄附」は、着実に一定の広がりを見せてきていますが、賛同店の皆様へのインセンティブが「とみさぼニュースレター」での紹介等に限定されてしまっている現状を踏まえ、今後開催される市民活動フェスタ等で「ちい寄附」賛同店の皆様の希望があれば、物販場所、PRブースを設けるなどして、より積極的にお店のPRに寄与できたらいいのではないかと考えます。

市民活動感謝状贈呈については、これをきっかけに、様々な取組を周知でき、受賞された方からは自信を持つことができましたとの声を聞きます。市民活動の活性化につながっていると思うので、より多くの方への周知として、表彰された人を、SNSを活用し発信するなどの方法を検討していただきたいと思います。

人柄、どんな事をしているか、固くないフラットなやり方で親しみやすい発信をしていくことで、制度自体も周知されていくと思います。

とみさと協働塾の取組の一つであるボランティア体験については、傾向として「何かを得られる」「楽しみがある」体験には参加者が多いように思うので、市民の「やりたい」衝動がどこからくるのかを考える必要があります。

もう一つは「ステップアップセミナー」が、十分に活用されていないように感じるため、サポートセンター等で定期的に活動をしている登録団体に対して、聞き取りニーズ調査を実施してみてはどうでしょうか。活動団体のニーズに合わせたセミナーの提案をすることで、ステップアップセミナーの充実につなげていただけたらと思います。

ボランティア手帳の効果的な活用については、協賛品との交換など様々な検討をし

てきましたが、未だに有効な解決策が見つかっていないのが現状なので、活用方法など根本的な部分から見直す必要があると思います。

若者プロジェクトチーム事業による取組は、とても重要で今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。

この取組を継続することは、将来の富里市の市民活動にとって大きな成果を生むことにつながっていくものと思います。

多文化共生による市民活動の促進については、市内で行われるイベントなどで母国の紹介や交流を図れる場の創出や、もしくは、市がサポーターとなって主催したい外国人を募集し、支援してみてもはどうでしょうか。参加者としてではなく、主催する側で関わることで、交流が深くなると考えます。

また、海外から見た視点で、意見を聞くことから始めてみることも、市の観光行政の取組の観点からも有意義だと思います。

各小学校区を単位とする地域づくり協議会を通じて、区長や自治会長へ協働のまちづくりの理解を図り、その取組や地域課題の共有に関しては、個人情報への取扱いに注意を払いつつ、積極的に進めていってほしいと思います。

## 【第2節 情報の提供・共有】

全体的な情報発信には、努力されていると思いますが、更に一層の努力をお願いします。また各事業に参加されている各団体の活動内容や事業者の地域活動の情報収集に努め、市民、地縁による団体、市民活動団体、事業者、市に対して、周知できるようにしたら良いと思います。

「架け橋～市民活動団体出前講座」は、市民活動団体のPRにもなり、活動団体の会員のモチベーションアップにもつながると思うので、ニーズが少ない原因の分析をし、当委員会としても解決策を探り、検討していきたいと思います。

協働専用情報発信ツールの運用については、Facebook、Instagram、メールマガジンなど、フォロワーや登録者が増えるような取組が必要と考えます。

Youtubeについても、協働専用のチャンネルを作るよりは、富里市の公式チャンネルを充実させるとともに、そちらに協働関係の動画をアップすることで、関心がない人の目にとまるようにし、参考となる指標として、市の公式チャンネルでの動画掲載数や視聴数を使うことができると考えます。

魅力発信の検討・創設については、「とみさとファンクラブ」の認知度の向上と、市民活動団体の方々にも登録を促すなど、会員の更なる増加への斬新なアイデアの提案を期待しています。

また、年代別に富里の魅力を発信する方法やYoutubeによる動画の配信は、富里のイメージづくりに有効なツールになりうると思うので検討してはどうでしょうか。

とみさと市民活動フェスタについては、当委員会の委員も運営委員として積極的に関わるなどの検討をし、継続的な開催と以前のような単独での開催も検討いただきたいと思います。

異分野・異世代の交流については、計画の中で「主な関連事業」に「地域づくり協

議会」関連が2つ記載されているので、地区で交流する方法が中心の印象を受けますが、取組実績にあるようにテーマで集まるやり方も含まれているので、フェスタやフォーラムのようなテーマで集まる方法もどこかに明示し、対象が絞れる呼びかけでの実施も有益かと思います。

中間支援組織などとの連携では、「みんなでボランティア体験」として、富里市ボランティアセンターの連携・共催で実施し、体験の受け入れ団体が増えたことや受け入れ期間を長くして、小学生から大人まで幅広い年齢層を対象に実施されたことが良かったと思います。来年度は更に参加者が増えることを期待しています。

市民活動の実態及び意向調査については、調査の役割について、市民活動団体や事業者が活動・事業を通じて把握している市民ニーズや地域課題を集約し、サポートセンターの7つの支援力の一つである政策提言へとつなげることを加えてはどうか。

### **【第3節 市の推進体制】**

「協働」というものがより浸透していくように、市内での連携を図り、普及に努めていただきたいと思います。

地域課題を整理する円卓会議については、今一つ推進が図れていないため、その推進の方法について、検討をお願いします。

市職員の協働意識の醸成についても、職員研修を充実させるとともに、研修会で出た意見などを推進委員会にフィードバックして、共に協働のまちづくりの充実を図るのも一つの方法と考えます。